

第6回 第二期武蔵野市コミュニティ評価委員会

■日 時：平成17年7月4日（月）19：00～21：30

■会 場：商工会館 講座室

■出席委員：玉野委員長、小原副委員長、荒川委員、原委員、田中委員、檜山委員

■武蔵野市：事務局 市民活動センター所長 ほか3名

1. 自己点検・評価方法について

【委員長】自己点検・評価方法の具体的な検討となる。正副委員長と事務局でこれまでの議論を踏まえて作った「自己点検・評価表」の案だが、5段階評価で自己点検を基本にし、大項目ごとに自由回答を設ける形にまとめたらどうだろうか。

【委員】5段階評価の「十分」という表現だが、「十分」という基準がわからない。

【委員長】これは協議会側の主観的な評価として、5段階でチェックをしてもらうという考え方である。客観的な基準があつてということではない。

【委員】広報誌だが、「発行回数」と「発行部数」の問題は分けた方がわかりやすいと思う。

【委員長】広報誌は「何回出しているか」「何部配っているか」と書いてもらい、懇談会等の場で相互に見たり、評価の報告書を見て確認していかなければならないところもあるだろう。

自己点検・評価表は、自分たちがどういうものに力を入れて、見落としていたかを見る項目と理解し、活用してもらった方がいいだろう。チェックをつけるということはどういう意味合いなのかは解説をしなければならないと思う。

【委員】「十分である」の方にグラフが寄っていた方が良いと判断するのか。

【委員長】協議会ごとで、どこをどういう重みづけをしているかの様態が一目で見られるのではという意味である。

【委員】運営委員会の中でも「これで十分だよ」と『十分である』にはとてもチェックをつけられない」という方がいると思う。代表や役員が質問に対してきちんと説明ができるようにしておかなければならない。

【委員長】「何のために5段階でつけるか」という説明をきちんとしないと大変な誤解を受ける。

【委員】「問題の重要度をどのように考えているか」と「その達成度」があると、そのコミュニティの方向性と達成度がわかるのではないか。

【委員長】「どの程度重視していますか」と「どの程度できていると思いますか」と2段階構えにしていくのは一つの方法だ。

【委員】「企画の革新性」の「地域の諸団体との連携やネットワークは進んでいますか」という項目だが、「進んでいますか」というのは「必ずそういう団体と一緒にやっています」ということなのか。

【委員長】うまくいっているかどうかを聞きたい。

【事務局】「うまくいっていますか」は「進んでいますか」とある意味では同じだと思う。ここで羅列方式にしたのは、例えば、自分たちの協議会としては地域社協や福祉の問題について、重点的に力を入れているかを浮かび上がらせるためである。

【委員】「進めていますか」だと「それは進めているけれども、まだまだ十分でない」という意味では答えやすい。

【委員長】こちらから見た感じでは、意識して連携をとっているところと、とっていないところが明らかにある。それがわかるような答えやすい表現は何か。

【委員】掲げた諸団体の中から5つ選ぶというのはどうか。5段階で評価していくのは、全部とネットワークを進めるべきだという前提が合意としてあるのであればいいが、それぞれ違うのだから難しいと思う。

【副委員長】「進めていますか」というのは意図を聞くわけで、「進めるべし」という底意識があるようにも思える。「進んでいますか」という聞き方をしたのは、できるだけ「客観的事実関係を聞くだけです」というねらいである。

【事務局】最初の案では、「地域の諸団体との連携やネットワークが進んでいますか」を段階別自己評価、「その中で特に力を入れて連携を図っている団体は、次のうちのどの団体ですか」と最高3つまで選ぶという案もあった。それでも浮かび上がりは出てくる。

【委員長】それでは、頭から見ていきたいと思う。

大項目は「運営の参加」「企画の革新性」「利用の配慮」「法規の遵守」という形で分けたが、表現としては「住民参加による開かれた運営になっているか」等と文章で書き、その後括弧をして「運営の参加」にしておく方がわかりやすいと思う。

「運営の参加」だが、「どの程度重視していますか」と「どれぐらいできてますか」と2段階構えに並べ、自己評価することはできると思う。協議会としての特徴がある程度出るのであれば「どの程度重視しているか」も入れていいと思う。

【委員】重要度としては高く見ているが、自分のコミュニティを評価した時に「普通である」「不十分である」と評価がついていれば、ここは一生懸命やっているのだなと考えると思う。

【委員長】両方あった方がその辺の様子はわかるのかなと思うが、そういうふうを受けとってもらえるかどうか。

【委員】ほとんど重視しなくてはならない項目だから、重視しているかどうかは聞かなくてもいいと思う。

【事務局】この項目で「重視しているか」「重視していないか」にチェックするとしたら、「重視している」にチェックするしかないと思うが。

【副委員長】答える側としては、できるだけシンプルにしてほしいという要望が強いので、定量的なところはできるだけシンプルにして、重複がないかどうかポイントを置き、定性的な部分は自由記述式の回答を用意しているので、そこで思う存分書いてもらう方法でいいのではないか。

【委員長】「運営の参加」の項目は、参加をしてもらうことが重要だと考えているのを前提に、どの程度できているかを自己評価としていただく。その評価の過程で、運営委員会で意見を出し合っ、現状を自己点検しながら考えていく。

項目の整理をしたいが、広報誌の「発行回数」と「発行部数」は分けた方がいいのか。

【委員】分けた方がいい。

【委員長】「広報誌以外の方法」というのは必要か。

【委員】必要である。

【委員長】「コミュニティの活動は住民の方々に十分知られていると思いますか」、「コミュニティの活動は住民の方々に十分評価されていると思いますか」、「地域住民や利用者にコミュニティの活動を知ってもらうための努力は十分に行われていると思いますか」は似たような項目なので、どれか1項目でいいと思う。

【委員】 どれだけ知られているのかというのは自分で感じることだと思う。

【委員】「知ってもらうための努力は十分行われていると思いますか」と聞かれるよりも、「知ってもらうための努力を十分していますか」と聞かれた方が答えやすい。

【委員長】ここは「コミュニティの活動は住民の方々に十分知られていると思いますか」というのがいいと思う。「呼びかけや参加」の項目について、「住民総会」と「文化祭・各種行事」を分けたが、住民総会は入れてもしょうがないと思うが。

【事務局】住民総会はなかなか人が集まらない。コミュニティ協議会を地域住民に知ってもらい、地域のニーズを知るためにもたくさん来てもらいたい。

【委員長】では、残そう。

【委員】「新任の運営委員・協力員・窓口担当者に必要な説明や研修を十分行なっていますか」だが、窓口担当者というのは、具体的にこういうことをやらなければならないというのがあるが、新任の運営委員・協力員は改めて「研修」となるとどうなのか。

【委員長】窓口担当者について、ここに入れるのは不適當な気もする。ここには「運営委員や協力員として新しく入ってきた人にどう対処しているか」ということを入れた方がいいのかどうかである。

【事務局】これは「今年度新たに運営委員・協力委員として関わってくれる人の数はどうですか」の設問との連携の中であって、新たな人材をどう確保して、その人たちにコミュニティ活動について継承していつているかということである。

【委員長】残すとしたら、「新任の運営委員・協力員に必要な説明を十分行っていますか」という項目なのだが。

【委員】新しい運営委員とか協力員の入れ替わりがうまくいつているかということだと思う。

【委員長】そこに問題があるからなかなか入れ替わらないということや大事にし過ぎて難しかったということがわかればいいと思う。項目としてはあってもいいということでもよろしいか。

それでは、自己評価を5段階でしていただき、その上で「住民参加の度合いや開かれた運営について総合的にどう評価しますか」を記述で書いていただくことでもよろしいか。

【副委員長】その総合評価も、私は「1・2・3・4・5」があつていいと思う。

【委員長】原則的にはそういう形にしよう。総括評価してもらった上で、どうであるかということを書いていたいただく。

次に「企画の革新性」だが、「地域の諸団体との連携やネットワーク化は進んでいますか」という項目は性質が違うところがあるので、考え直す必要があるかと思うが、他の項目については、コミュニティが取り組んでいる事業についての評価を、いろいろな観点から自己評価してほしいということだがどうか。重視しているということではなく、実態としてどの程度できているかを答えてもらうしかないと思う。

【委員】利用者懇談会で出されるニーズというのは、建物の構造的な問題がほとんどで、企画のことはない。

【委員長】ここは「地域住民の要求や課題にこたえるための企画の立案・実施は十分なものだと思いますか」という聞き方でいいと思う。「地域の諸団体との連携」の項目は最後の方に持っていった方がいいと思う。「協議会の独自企画や事業」という項目だが、単純に「協議会主催の独自の企画や事業は行われていますか」で、「行っている」「行いたいと思っているけれども、なかなかできない」等と話し合われていけばいいのではないか。「広域的課題について、他のコミュニティ協議会などと連携して取り組む活動は十分なものだと思いますか」については総括的だが、広域的課題は「ある」か「ない」かによるので入れておいた方がいいのか。

【委員】励みにはなるかもしれない。

【委員長】それを踏まえて「地域内の連携やネットワーク化の現状について」と「地域外の連携やネットワーク化の現状について」を答えるか。

【委員】「十分であるか」という聞き方は必要なところだけに絞って、「取り組んでいるか」と統一してしまった方がいいのではないか。

【委員長】プラス評価からマイナス評価までの5段階でどの辺だと思いかチェックしてもらったりやり方もある。最後に「地域の諸団体との連携やネットワークは進んでいますか」を持ってきて「次に挙げる団体について、特に重視しているものをすべて挙げてください」という形だと協議会ごとにある程度特徴が見えるだろう。その上で、「地域内の連携やネットワーク化の現状について」も段階評価をしてもらった上で書いてもらう。地域外も分けて書く。

【事務局】「地域外の連携」の項目があるならば、「広域的課題」の項目は必要か。

【委員長】「広域的課題」は聞き方が違うだけなので要らない。

【副委員長】「地域内の連携」と「地域外の連携」を5段階評価もやってという形にすると、「地域の諸団体との連携」と「地域内の連携」が同じことを聞いているようになる。

【委員長】コミュニティの活動の実態としては、「内外」で分けて論じられるのか。

【事務局】「地域外」というのは他のコミュニティエリアの団体とのネットワークで、「地域内」は地域内のネットワークである。

【委員長】目的別コミュニティの違いは実際にあるのか。

【委員】ある。

【委員長】「他のコミュニティ協議会とこういうふうに行っている」ということが重要であるならば、「地域内の他の団体との連携やネットワーク化」と「他の地域のコミュニティ協議会や諸団体との連携やネットワーク化」にするか。

【副委員長】総合評価は地域内外全部一緒だと聞いて、あと自由に書きなさいといった方が形式的に美しいような気がする。

【委員】あるいは、「地域の諸団体との連携」と「地域内の連携」を一本化して「どう重視しているか」「現状についてどう思うか」とする方がすっきりするかもしれない。

【事務局】「どうですか」「力を入れているのはどれですか」と5段階評価して、「その現状についてどのように評価しますか」「理由は何ですか」と記述式にする。セットにするか繋げるかはあると思う。

【委員長】最後に「地域外のコミュニティや諸団体とのネットワーク化の現状についてはどうですか」と聞く。

【事務局】団体は書かないとしても、「進めていますか」と5段階評価して、その理由を記述式

で書いてもらう。

【委員長】地域外というのは特定の問題がない限りはなかなか想定されず、書けるところもあれば、「可能性としてはあるけれど、当面はない」「必要だけどなかなかそこまでは手が出ない」と書き方になるところも出てくる。自己評価としては入れておいた方がいい。

「利用の配慮」ということで6項目挙げたが、少し検討が必要なところがあると思う。

【委員】「特別な利用の制限や独自ルールを定め、それらを利用者に十分周知していますか」と「施設の利用の仕方、自分たちでできる工夫をしていることはありますか」は重複しているような気がする。

【委員長】「施設の利用の仕方、自分たちでできる工夫をしていることはありますか」は要らないという考え方もできるがどうか。

【委員】例えば、午後の単位を2つに分けることで、月曜日午後の利用者は必ず早く終わるとすれば、その日の後半は別の利用者に貸せるというようなことを表現した。

【委員】それは「利用の制限や独自ルール」になるのではないか。

【委員長】「特別な利用の制限や独自ルールを定め、それらを利用者に十分周知していますか」の項目を残して、「十分か」ということになるのだが、この意味合いが難しい。

【委員】「制限」を削り、「利用の独自ルール」で通じないか。

【委員長】自己点検・自己評価という形で、利用の制限についてどのように考えるかを改めて考えてほしいということが意図としてある。苦慮している実情があつて、そのことをどのように自己点検・自己評価していくかということが一つのテーマとしてある。

【委員】「利用の制限や独自ルールについては、利用者に十分周知していますか」でどうか。

【委員長】それが一番「理解してもらえていますか」という感じである。

【委員】「特別な利用の制限」という部分で、例えば、コミュニティセンターを利用しているのに、高額な月謝のようなものをとっているのもその1つだと思う。

【委員長】そこら辺の話が最後の「コミュニティセンターの管理運営について、問題や課題となっている点、対応に苦慮している項目はどんなことですか」で出てくるような形で一つ入れておきたい。

【委員】「特別な利用の制限」をコミュニティセンターで行っていいのですかという考えもあると思う。

【委員長】コミュニティセンターによっては、事実上の営利利用のようなものへの対処などを常に抱えていると思う。

【委員長】「コミュニティセンターの管理運営について、問題や課題となっている点、対応に苦慮している項目はどんなことですか」の中で出てきたものを、意見交換会で議論するやり方のほうが適切であつて、こういう形でやるのは無理があるのか。この項目に「例えば」を入れる。

【委員】本来のコミュニティの目的でない使われ方をすることによって、本来使いたい人が使えなくなってしまうということが起きてくるので、それを防ごうとしている。そうしてあげることによって、利用者に対して配慮ができていくかということを考える。

【委員】「施設の利用の仕方、自分たちで工夫をしていることはありますか」も削ずるとしたら、「使いやすくするための工夫をしているか」もここへ出すか。

【委員長】「施設の利用の仕方、自分たちで工夫をしていることがありますか」を「利用しやすい工夫」という形で残しておく、最後の項目を「問題や課題となっている点、特別な利用の制限など、対応に苦慮していることはどんなことですか」という形で入れておくか。

【事務局】「特別な利用の制限」の「特別な」は入れなくていいのではないかな。

【委員長】「利用の制限」でいいと思う。

【事務局】窓口担当者の研修について、ここに入れるという意見もあったが。

【委員】「法律の遵守」の項目に入れるのはどうか。

【委員長】「窓口担当者の研修は十分だと思いますか」と入れるとしたら、「利用の配慮」の方が自然だと思う。

【事務局】全協議会にマニュアルはあるのか。

【委員】窓口担当者との連絡会をやっているが、その連絡会の記録は必ず出す。

【委員長】窓口担当者内部の連絡や研修まではいなくても、対応がうまくいっているかどうかの項目を挙げる必要はあるのか。

【委員】ある。

【委員長】「窓口担当者の対応や連絡はうまくいっていますか」「十分なものですか」という感じで、最後に入れた方がいいと思う。

「法規の遵守」はこのような感じでよろしいと思う。

最後に全体を踏まえて「成果と目標」を書いてもらう。ここは基本的には最終の自由記載欄だが、記載に当たっての手助けで、いくつか例示的に出している。ここは「～まちづくりの推進に関する総合的評価～」をとって、「成果と目標」だけにした方が書きやすいと思う。

【委員】「目標と成果」にしてほしい。

【委員長】それでは、「目標と成果」だけにする。趣旨としては、「こういうところを評価してほしい」とか「重視しているのだ」と書きたいところもあるので入れている。それと、これまで評価活動がどのように影響しているか等も含めて書いてもらえればいいのではないかなということ例示を入れている。

いろいろ難しい部分はあるが、とりあえずやってみようということで、ご了承いただければありがたい。

2. 今後の予定について

運営委員会の傍聴・文化祭の視察は、各委員が担当するコミセンを個々に行く。担当コミセンについては、運営委員会・文化祭の日程が決定したら、事務局が各委員に一覧表を送るので、可能な日をお知らせしていただき、それに基づき調整する。

3. 次回の日程

10月14日（金） 19：00～